すきやまちや

木の柔らかさ、枝ぶり、色、肌触り、経年変化。一本一本異なる木の個性をそのまま住まいに取り込み、木を建築や家具をつくる材料としてでなく、暮らしの場を生み出す存在として使う。



2 階：寝室から加茂川の景色が広がり秋には上加茂の山々の紅葉を望む



1 階：通り庭と坪庭が内外をつなぎ、住まいのなかで季節の移ろいを感じる

01 CONCEPT - 好き屋町屋 -

数寄屋建築の「数寄＝好き」を現代の暮らしへと読み替え、新しい「好き屋建築」を提案する。一本ずつ異なる木を柱として点在させ、木の個性から場の特性を生み出す。また、木の柔らかさを活かし、釘を打って棚をつくるなど、住人の「好き」によって暮らしの場がつくられていく。



02 SITE - 上賀茂の四季を取り込める敷地 -

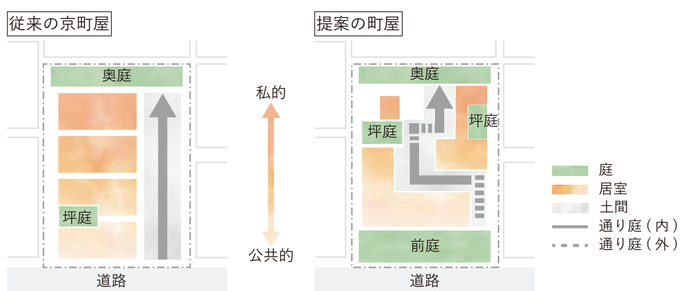


敷地：京都府京都市北区大宮

上賀茂本山を望み、桜並木や豊かな緑、秋の紅葉など、**四季の自然**が広がる。賀茂川や河川敷では、人々の日常の営みを身近に感じられる。

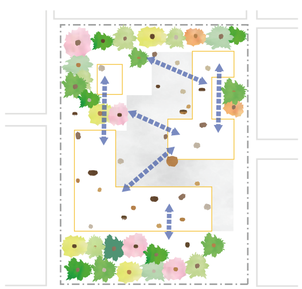
03 DIAGRAM - 通り庭が空間をつなぎ、木々が風景をつなぐ -

■直線から内外を縫う通り庭へ



曲がりくねる通り庭は、**内外を横断**しながら、従来の京町家がもつ「公から私へ」という構成を継承する。同時に、**性格の異なる庭を点在**させ、住まいの中へ緑を引き込む。

■通り庭により、連続する風景



様々な樹種の柱を室内に林立させ、庭木と一続きの「木々」として内外に連続する風景をつくる。



配置図兼 1 階平面図　S=1:150



2 階平面図　S=1:150



北側立面図　S=1:150



南側立面図　S=1:150



断面図　S=1:150